

# ロータリーとして地域社会の課題を いかに解決に導き奉仕につなげるか



## Panelist in Panel Discussion



長崎県大村市長  
**園田裕史氏**



長崎県長与町長  
**吉田慎一氏**



2700地区博多イブニング  
ロータリークラブ所属  
**伊藤清隆氏**  
リーフラス株式会社  
代表取締役



**下津浦 朱門 氏**

長崎青少年育成振興協議会  
代表



コーディネーター  
田村志朗(株式会社梓書院)  
RID2700 福岡東RC所属



地域課題の解決

ロータリークラブは、「地域や世界をより良くする」ことを目的とした、職業や立場を超えて集まるボランティア団体です。

地域の課題を解決するために、教育支援や防災活動、高齢者福祉、環境保護など、様々な取り組みを行っています。

また国際交流や平和推進の活動も積極的に行い、「**自らが社会を豊かにする (I serve)**」という理念を実践しています。地域や人々のつながりを深めながら、共に未来を築いていくことを大切にしている団体です。

## 地域課題とは

地域課題とは、**地域が抱える経済・社会・環境などの問題**です。

地域課題は、地域ごとに異なる特徴や要因を持ち、地域の活性化や持続的な発展を妨げる要因となっています。

地域課題の解決には、**地域の特性や課題を的確に把握し、効果的な対策を講じることが重要**です。

また、**地域住民や企業、行政、関連団体が連携して取り組むこと**で、より効果的な解決につながります。

### 都市部の社会問題例

- 大都市の過密・混雑
  - ・ 待機児童問題
  - ・ 大規模イベント・発災時の混雑・事故
- 地方都市のスポンジ化
- 地域コミュニティの弱体化・機能不全

### 過疎地域の問題例

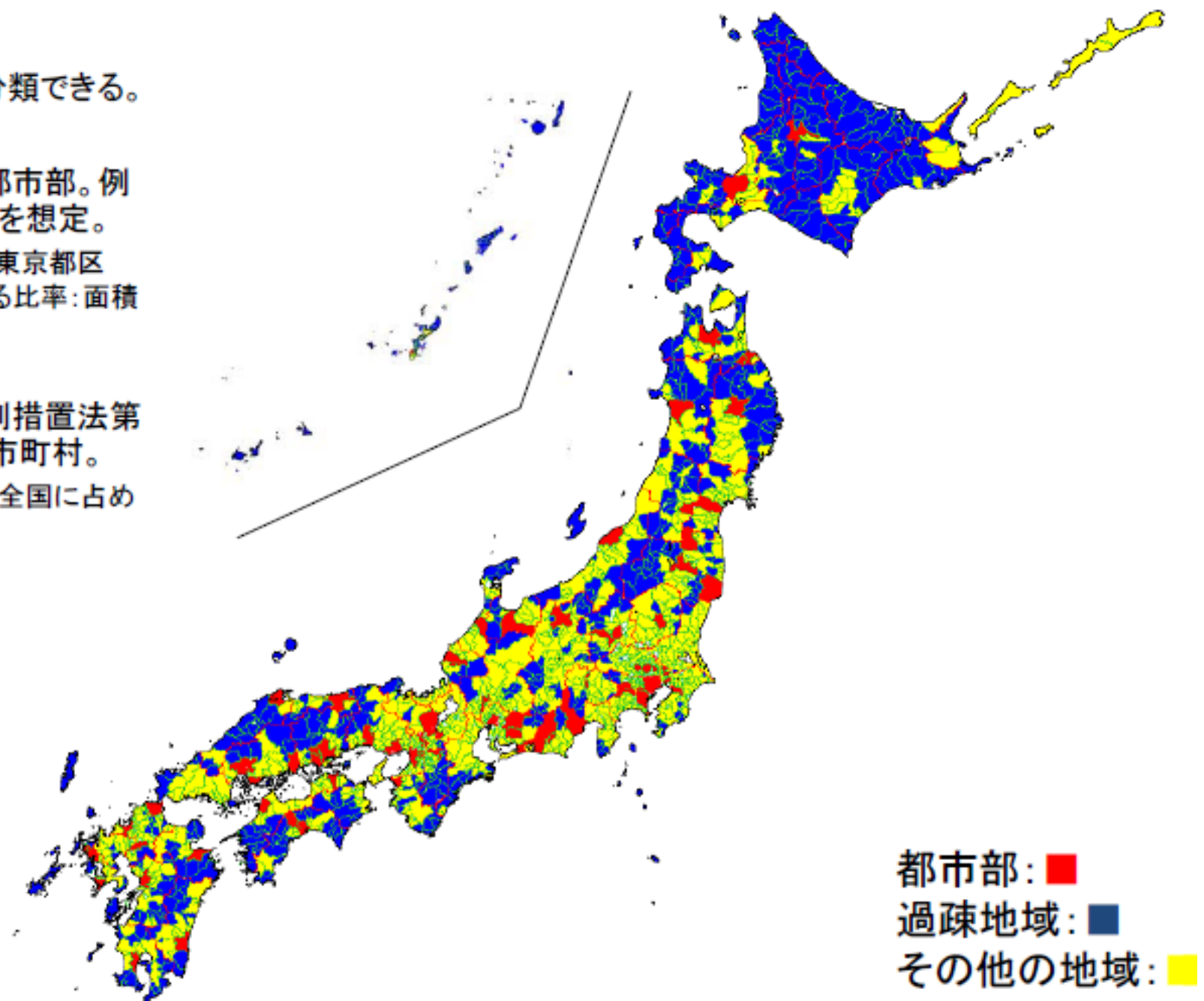
- 人口流出、経済・社会の持続性の低下
  - ・ 移住・交流の停滞
  - ・ 魅力ある雇用先の減少
  - ・ 観光客・住民の移動困難
  - ・ 発災時における住民所在確認の困難

### 共通の問題例

- 人手不足
  - ・ 医療(特に過疎地域)・介護従事者
  - ・ 教員
- 公共施設の過不足、整備・更新コスト
- 観光客の動態把握の困難(観光ルート等)

地域・地方は、たとえば、以下のように分類できる。

- **都市部**：過疎地域（下記）以外の都市部。例として、政令指定都市及び中核市を想定。
  - －（参考）全国の政令指定都市20市（除：東京都区部）および中核市58市が、全国に占める比率：面積比10%、人口比39%
- **過疎地域**：過疎地域自立促進特別措置法第2条1項「過疎地域」本則適用647市町村。
  - －（参考）全国の過疎地域647市町村が、全国に占める比率：面積比57%、人口比9%



都市部：■  
過疎地域：■  
その他の地域：■

## Panelist in Panel Discussion



長崎県大村市長  
**園田裕史氏**



長崎県長与町長  
**吉田慎一氏**



2700地区博多イブニング  
ロータリークラブ所属  
**伊藤清隆氏**  
リーフラス株式会社  
代表取締役



**下津浦 朱門 氏**

長崎青少年育成振興協議会  
代表



コーディネーター  
田村志朗(株式会社梓書院)  
RID2700 福岡東RC所属



# 全国の自治体で導入されている300超のスマートシティサービス<sup>1)</sup>調査から抽出された 頻出の地域課題

大分類	小分類 (地域課題)	件数	大分類	小分類 (地域課題)	件数
① 交通・モビリティ	都市部の移動手段の高度化	30	⑤ 健康・医療	疾病の予防や健康づくり	24
	過疎化で公共交通機関の維持が困難	13		医療の高度化・パーソナライズ <sup>2)</sup>	23
	高齢者の移動が困難	7		医療施設へのアクセス難 (遠隔地、高齢者 等)	15
	交通渋滞	3		高齢者の介護	6
	その他 (積雪等の特殊環境対応 等)	3		医師・看護師の不足	1
② 防災	災害時の住民への正確な情報提供と避難支援	25	⑥ 農林水産業	農業・漁業の経営効率化	9
	災害時の適切な医療サービスの提供	2		農業・漁業事業者、労働者の誘致	4
	河川の氾濫対策	1		農産物の地産地消の実現	1
	津波対策	1	⑦ 環境・エネルギー	脱炭素の推進	16
③ 行政	窓口サービス (住民票取得や税金納付 等) の効率化	10		エネルギー自給体制の確立	7
	インフラ/ハード (道路や上下水道 等) の効率的な整備	9	資源循環、ごみ処理	1	
	バックエンド業務の効率化	3	⑧ セキュリティ・見守り	防犯体制の確立	10
	電子投票の実現	3		高齢者の見守り	6
	本人確認、認証の高度化	2	⑨ 都市計画	効率的な都市インフラの整備	6
④ 観光・地域活性化	住民参加プラットフォームの構築	2	⑩ 物流	物流・配送サービスの効率化、高度化	14
	観光業の振興	21	⑪ 教育・文化	個々人のニーズに合った学校教育	13
	商業、サービス業の振興	17		リカレント教育の促進	3
製造業、ものづくりの振興	2	大学教育の社会への還元		1	

まとめ

## A あるべき姿からのトップダウン



- + 自分達の強み・弱み、置かれている環境を客観的に見渡した全体最適な方針を示すことが可能で、分野横断や挑戦的な取組にもチャレンジしやすい
- 最終受益者である住民や、行政サービスの提供者である職員の目線が欠けがち。結果として、実現性のない絵に描いた餅で終わったり、サービス導入できても、住民の利用率・満足度が上がらなかったりするリスクあり

## B 各部署でアイデア出し



- + 住民・事業者に近い立場からの声を収集することが可能。また、フィージビリティも考慮できるため、実装につながり易い
- 基本的に各部署のポジショントークになるため、個別最適に陥り易い上、縦割りでアイデアを出すため、分野横断の取組にもなり難い。また、各部署が“(簡単に) できる” アイデアだけが出てくるリスクあり

## C 住民・事業者からのボトムアップ



- + 住民・事業者の声をダイレクトに収集することが可能で、サービス導入後も、高いサービス利用率や住民満足度が期待できる
- 広範囲に住民の声を拾うこと・住民の声を適切に評価することには、相当な工夫が必要。また、B同様、ポジショントークになるため、そのまま採用すると、個別最適に陥り易い



各パターンの長所/短所を押さえた上で、上手く組み合わせることが重要

# ロータリーとして地域社会の課題を いかに解決に導き奉仕につなげるか

